



「四年生 食育授業」令和三年十一月八日実施
 株式会社牧場の松浦光様とJA上川生産連の岡崎様にお越しいただき、「旭高砂牛」について学びました。旭川のお酒蔵「高砂酒造」から生産される酒粕を飼料に混ぜて育てられた「旭高砂牛」のおいしさや、生産者の思いなどについて学びました。普段の生活で口にしていくもののがどのように育てられ、私たちの食卓に並ぶのかを生産者から直接聞くことは、子どもたちにとっても貴重な経験になりました。
 (旭川市立近文小学校)

No. 140 (令和4年3月1日)

おもな内容

ページ

随 想	1
教育講演会	2・3
令和4年度 講座開設の工夫	3
令和4年度 当研修センター開催予定講座	4
研修講座寸描	5
出前講座寸描	6・7
研究室だより・研究協力校の実践	8～9
ICT実技研修講座開設	10
当研修センターの貸室案内	10

随 想

少子化における教育環境



上川教育研修センター組合教育委員会

委員長 中野俊和

(上川町教育委員会教育長)

平成二十八年四月に教育長を拝命し、六年が経過しようとしています。

私自身、上川町で生まれ育ち、昭和五十年に上川町役場に奉職しました。当時は、町の人口が一人弱でしたが、現在は、三四〇〇人弱となり人口減少と少子・高齢化が進んでいます。

また、当時学校は、小学校七校、中学校一校でしたが、現在は小中学校各一校となり寂しい気持ちがある一方で、少数で子供達一人ひとりに目のとどきめ細やかな見取りや心配りができることで先生のより丁寧な指導がなされています。自分の小中学生の時の、ぎゅうぎゅう詰めの教室での環境とは違い、時代の違いを痛感すると同時に、現在の子供達には良い教育環境に恵まれていると感じています。

少子化は、わが町だけでなく、全国的に進行しています。

原因は、女性人口の減少をはじめ出生率の低下など様々あり、改善するには難しい課題が山積しています。それには、国と地方を挙げて安心して子供を産み、育てられる環境(教育を含む)整備が必要で、若い方のニーズに合った充実した施策を展開することが必要と考えています。

また、少子化の影響で上川町もそうですが、一市町村に一小学校一中学校とい

う市町村も増加しており、学校の統廃合が進んでいます。地域住民の視点では、学校がなくなることに抵抗感が強くあることも事実ですが、現実を直視すると地域の実情に応じた統廃合は、一つの方策であると考えています。

さらに、地域の特色を活かした小中一貫教育、学校間連携、ICT活用など発達段階に応じた多様な教育環境の整備が必要です。特にICTの活用は、維持管理にかなりの経費が継続的に必要で財源確保が必須です。このことに対する国の教育予算の充実を望んでいます。

最後に、一昨年から新型コロナウイルス感染症の影響により学校生活にも制約や制限される中ですが、子供達がしっかりと自ら考え、自ら進んで行動する姿をみて、立派だと思えますし、私自身もこのことに日々元氣と勇気をもらっています。こうした、子供達の頑張っている姿を見て、私からも子供達のために元氣や勇気を与えられるようにしたいと思っています。子供達がより生き生きとした学校生活を送れるよう、小規模のメリットを生かした二人ひとりに適した最適な教育を推進するなど、ハード・ソフト両面で「充実した教育環境」の整備に一層努めて参りたいと考えています。改めて未来の社会を担う子供達の健やかな成長を切に期待しています。

「ふるさと共育(町長講話)」令和三年六月実施
 本校では、総合的な学習の時間で「ふるさと鷹栖町に誇りをもち、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」というテーマを掲げ、ふるさと鷹栖町に対する探究活動に取り組んでいます。
 町長をはじめ、役場の職員の方や卒業生、町出身者、移住者、起業家の方達に協力していただき、講話や町内視察、議会傍聴を行うなど、町全体で生徒を育てる活動を行っています。
 (鷹栖町立鷹栖中学校)



センター日誌

※	4月1日	令和4年度研修講座開催要項発行(予定)
毎週火曜日	定期研究室会議	
12月11日	研修事業拡大会議	
12月14日	センター運営協議会	
12月18日	センター研究発表会	
1月11日	冬季合同所員研	
1月18日	センター組合教育委員会会議	
2月3日	センター組合協議会定例会	
3月1日	センターだより第140号発行	
3月31日	令和3年度研究紀要第47号発行(予定)	
4月1日	令和4年度研修講座開催要項発行(予定)	

上川教育研修センター 教育講演会

概略

演題 「授業を変える学習評価 ～資質・能力の育成を目指して～」

講師 北海道教育大学旭川校 学校臨床准教授 兼 教育学部准教授
(前 文部科学省国立教育政策研究所 学力調査官・教育課程調査官)



やま なか けん じ
山 中 謙 司 氏

★ 学習指導要領と学習評価の関係

学習評価と学習指導要領は授業を紹介して、入口と出口の関係です。学習評価を適切に行うためには、学習指導要領をしっかりと捉える必要があります。学習指導要領が変わり、授業が変わったにもかかわらず、これまでの評価と同じ考えで行っているのは、適切な授業改善に向かわない恐れがあります。

★ 学習指導要領の趣旨と観点別評価

「子供にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を分析的に捉えるために、まずは、学習指導要領の趣旨と観点別評価の観点を確認しながら、評価の実際を見てみたいと思います。

私が文部科学省で勤めていた2年目に学習指導要領改訂の実質的な議論がスタートしました。そこでは、2020年、2021年度からスタートする新しい学習指導要領について、次の改訂までの10年間使われることを想定し、この学習指導要領で学ぶ子供たちが大人になって社会を構成する2040年頃の社会を見据えた内容となっていました。さまざまな議論を通して、育成を目指す資質能力を3つの柱で整理し、何をどのように学ぶかが検討されることになりました。

★ 学習指導要領の趣旨と「知識・技能」

知識・技能は、学習した結果としての程度、それらを獲得したのかを見ることとなりますので、子供のなかにある成果物、すなわち「プロダクト」で見ることになります。このプロダクトでは、「他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解」ということに注目したいと思います。

★ 学習指導要領の趣旨と「概念形成」

概念を獲得するためには、トピックとトピックから生まれた事実が必要であると言われています。トピックとは、授業で考えると、学習の対象となる事象や題材です。事実は、トピックに何らかの働きかけを行った際に獲得した具体的にあたります。概念は、獲得した複数の事実をもとに、いろいろな場面や文脈に当てはめて考えることができるものにあたります。

具体的にみていくと、小学校3年の理科に「物と重さ」という学習があります。「物は形が変わっても重さは変わらない」という内容を学習します。その指導では、この内容を教師が直接的に教えることをせずに、まずは「粘土」という素材、「粘土の形を変えたとき」という「事実の枠組み」を設定します。そのトピックに実験という手法を用いて子供が働きかけることで、「粘土を丸めても重さは変わらない」という事実を獲得します。これで学習を終えてしまつては、「形が変わっても重さが変わらない」ことを「粘土」のときしか使えない知識にとどまってしまう。転移しない知識の状態です。

そこに、「粘土以外では？」と問うことで、「アルミ箔でも」「紙でも」と複数の事実を獲得し、「物は、形を変えても重さは変わらない」といういろいろな物に当てはめて考えることができる概念の獲得に向かいます。

学習指導要領では、このような手続き（概念的思考）を通して獲得したものを「生きて働く知識・技能」としています。「100回書いて覚えなさい」といつて

獲得する知識ではないことを意味しています。

このように「生きて働く知識・技能」を獲得する学習指導を実現するために、事実と概念の間を行ったり来たりする学習を通して、深い転移可能な理解と学習意欲の向上をもたらす学習を展開する「概念型カリキュラム」を構想することが大切だとされています。

★ 学習指導要領の趣旨と「思考力・判断力・表現力等」

思考力・判断力・表現力は、「既得の知識や技能をどのように活用し、必要となる新しい知識や技能をどのように得ればよいのかを考えた」りするなどの力」です。その過程を見る、すなわち「プロセス」を評価することになります。例えば、小学校理科の基本的な学習過程は、「自然事象への働きかけ」をスタートとして、問題を設定し、観察実験を通して、結論を導き出すといった「問題解決」の流れになります。

その中で、「問題の把握・設定」「予想や仮説の設定」「検証計画の立案」は「前半で思考力・判断力・表現力が働く場面」「考察」「結論の導出」は「後半で思考力・判断力が働く場面」になります。

この「前半」と「後半」のそれぞれでどのように思考力・判断力・表現力が獲得されたのかに加え、前半から後半の過程において、子供がどのように思考を深め、判断し、表現したのかを評価する必要があります。

★ 形成的評価の充実

子供自身が、自らの学習を振り返り、次の学習に生かそうとする、すなわち「学びに向かう力」を育成しないと、形成

的評価の目的が達成できない、「学習のための評価」にならないということになります。

です。で、子供にしっかりとフィードバック、振り返り、省察し、改善できる力を求める必要があるということです。中教審の答申でも、このことは触れられており、「学びに向かう力」では「メタ認知」に関わる力を求めています。

フィードバックに対して教師の関わりは、丸を付けて肯定的に受け止めることのほかにコメントを付すと効果的であることが先行研究でも明らかになっています。このコメントを通して、「子供自身が学習を振り返り、改善できる力を育成する」すなわち「学習としての評価」を位置付けることが考えられます。

★ 学習評価の総括

評定に総括する際の観点別学習状況の評価結果についての観点ごとの重み付けが異なることがあること、また、同じ「A」「B」「C」という評価結果についても、それぞれの評価結果が示す実現状況には幅があり、このことが評定への総括に反映されることも想定されます。

評定への総括については、①学年末に総括した観点別学習状況の評価結果を総括し、評定とする場合、②学期末における観点別学習状況の評価結果から各学期末の評定を行い、その結果を総括し、評定とする場合なども考えられます。

各学校においては、自校における指導の重点や評価方法等を踏まえ、評定への総括について検討し、適切な方法を定めておく必要があります。

★ 評価規準を子供と共有する

評価に関して陥りやすいミスとして、「学習課題（学習問題）と照らし合わせて、子供の学習状況の評価する」といったことがあります。子供に振り返りをさせる際にも、例えば、教師が設定する本時目標が思考力・判断力・表現力であったとしても「今日の学習で分かったこと」を書くといったことがよくみられます。

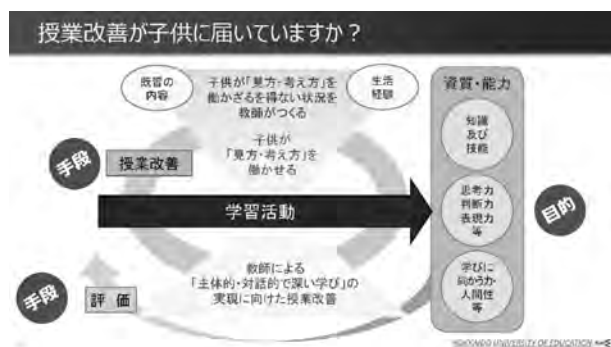
では、子供が「わかったこと」で振り返ることから脱却するには、どうしたらよいでしょうか。その解決

の方法の1つとしては、振り返りの視点、すなわち評価の内容を、「本時の頑張りどころ」、「めあて」や「目標」として明示しておくことです。例えば、6年生の理科「生物と環境」で扱う、水中の微生物について、「池のメダカは何を食べて生きているのだろうか」といった問題を設定して学習がスタートします。その時間の本時目標が仮に「技能」として「顕微鏡を正しく操作し観察することができ」といった場合には、子供に解決すべき内容は「メダカは何を食べているか」で、本時のがんばりどころは「顕微鏡を正しく操作して観察すること」だということを明示しておくといった具合です。

★ おわりに

「授業を変える学習評価」について、学びに向かう力につながる「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、「学習としての評価」、「子供が主体の学習評価」が求められること、個別最適な学びと協働的な学びを一体化した授業改善における学習評価では、子供の行動観察や発言分析だけではなく、記述分析のウェイトが大きくなり、子供の記述力の育成が求められることを述べてまいりました。

皆様の御期待に沿うお話にならないかもしれませんが、少しでも、冒頭にお尋ねした「主体的に学習に取り組む態度」の評価が適切に円滑に実施されて、資質能力の育成の一助になれば幸いです。



令和4年度 講座開設の工夫

- (1) 教職生活全般を通じた教職員等の資質能力の総合的な向上を目指す講座運営をする。
- (2) 教育経営研修では、教職生活の各段階で求められる専門性の基盤となる資質能力の充実を目指す講座を開設する。
- (3) 教育指導研修のうち、「幼保小連携教育」講座では、小学校との滑らかな接続を図り、学びの連続性を重視する。
- (4) 教育課題研修では、「学校・家庭・地域の連携」「教育講演会」「センター研究発表会」「学校力向上対策」の講座で多くの今日の教育課題に対応する。
- (5) 教科等指導研修では、小中間の連携を図るため、各校種合同で理論研修を行うとともに、それぞれの授業研究を行う。
- (6) 教科実技研修では、授業研究を重視し、より実践的な実技指導講座を開設する。
- (7) ICT実技研修では、GIGAスクールの対応を図るため、「表計算」、「タブレットPC」及び「プログラミング」についての講座を開設する。プログラミング講座では、ICTパークと連携してeスポーツ体験研修も引き続き取り入れる。
- (8) 期限付教員の指導力向上のため、各講座への積極的参加を勧める。
- (9) 講座開設情報は、開催要項に加え、センターだより、Webサイト、電子メールによる講座案内等により広く提供していく。
- (10) 講座運営に関する各種資料、関係図書の利便性を図ることができる資料室の充実に努める。
- (11) 新しい研修スタイルとして、日程の弾力的運用により感染予防と、受講者の参加しやすさを重視する。

令和 4 年度 上川教育研修センター 開催予定講座

番号	講 座 名	開催日	研 修 の テ ー マ	授業
1	読書活動	6 / 6	児童生徒が進んで読書に取り組むための工夫 ～朝読・家読等の取組～	小
2	学校経営Ⅰ	6 / 9	新しい時代を創造する学校経営の在り方	
3	特別支援教育	① 6 / 14 ② 7 / 12	障がいのある児童生徒の生きる力を育む特別支援教育の在り方	小・中
4	学級経営と教育相談	6 / 16	望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導の在り方	
5	複式教育	7 / 5	主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましく生きる力を育む複式教育	小
6	図工・美術科指導（実技）	7 / 14	基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う学習指導	中
7	学校力向上対策	7 / 26	今日的な教育課題の解決を図る学校力向上対策	
8	幼保小連携教育	7 / 27	小学校への滑らかな接続を目指す幼小連携教育の在り方	
9	道徳科指導	① 7 / 28 ② 9 / 30	児童生徒の道徳性を高める道徳教育の在り方	小・中
10	国語科指導	① 7 / 29 ② 8 / 31	言葉による見方・考え方を働かせ、適切に表現する力を育てる国語科指導の在り方	小・中
11	学校事務実務	8 / 2	学校事務における今日的課題	
12	算数・数学科指導	① 8 / 3 ② 9 / 7	数学的活動の一層の充実を目指した算数・数学の学習指導の在り方	小・中
13	外国語（英語）指導	① 8 / 4 ② 10 / 5	コミュニケーションを図る資質・能力を育てる外国語（英語）指導の在り方	小・中
14	社会科指導	① 8 / 5 ② 10 / 13	社会的事象に関する基礎的・基本的な内容を身に付けさせる指導と評価の工夫	小・中
15	理科指導	① 8 / 16 ② 9 / 29	理科の見方・考え方を働かせ、問題を科学的に解決する力を育てる理科指導の在り方	小・中
16	学校・家庭・地域の連携	8 / 30	子どもたちの生きる力を育むための学校・家庭・地域の連携	
17	音楽科指導（実技）	9 / 1	音楽の特徴や演奏のよさを見いだし、味わって聴く音楽	小
18	I C T活用	9 / 2	I C Tを効果的に活用した学習指導の在り方	小
19	学校保健	9 / 8	児童生徒の心身の健康を育む学校保健の充実	
20	体育科指導（実技）	9 / 15	体育の見方・考え方を働かせ、健康の保持増進と体力の向上を図る体育科指導の在り方	小
21	学校経営Ⅱ	9 / 27	スクールリーダーとしての教頭の在り方	
22	技術・家庭科指導（実技）	1 / 6	農業高校との連携を見据えた技術・家庭科指導	
23	ミニ道研A	未定	北海道立教育研究所による遠隔研修 （学校教育基礎シリーズ）	
24	ミニ道研B	未定	北海道立教育研究所による対面研修 （管内のニーズに応じた講座）	
25	センター研究発表会	12 / 13	「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」に関する第19次研究 2か年計画の1年次の研究を発表～センター研究員の実践～	
26	書に親しもう	1 / 5	毛筆で心を伝える作品制作（小品）	
27	絵に親しもう	1 / 5	水彩画で心を伝える作品制作（小品）	
28	教育講演会	1 / 11	講師・演題未定	
I C T 実 技 研 修 講 座	A 表計算入門	6 / 1, 7 / 29	エクセルの基本的な使い方や表計算の概念について （初級者向け）	
	B 校務のための表計算	6 / 3, 9 / 8	I F関数やV L O O K U P関数など、実際の校務で使うテクニックや応用 （中級者向け）	
	C 校務のための表計算／クラウド活用	6 / 17, 12 / 8	Formsと表計算アプリの活用について	
	D 授業のためのプログラミング入門	7 / 28, 11 / 2	小学校プログラミング教育の基本的な解説およびプログラミングの実習	
	E タブレットP C入門	8 / 2, 1 / 5	タブレットP Cの基本的な使い方について	
	F 授業でのタブレットP C活用	8 / 2, 1 / 6	タブレットP Cを授業で効果的・効率的に活用する方法について	
	G 校務でのタブレットP C活用	6 / 10, 7 / 28	タブレットP Cを校務で効果的・効率的に活用する方法について	
	出前講座	随時	管内各校（教育機関）からの要請に応じ実施する	

～詳細日程は、4月にお届けする「研修講座開催要項」で御確認ください。～

20 学校経営Ⅱ 9/28 (火)

研修講座寸描

受講者の感想から



Ⅱ講師Ⅱ

泉 大吾 〔上川教育局 教育支援課長〕

林 欽一 〔神居中 校長〕

小野 敦司 〔末広北小 校長〕

鈴木 豊 〔名寄小 校長〕

福澤 秀 〔永山南中 校長〕

・教頭職として大切な根幹部分を多方面からわかりやすく解説していただきました。貴重な資料もいただきまして、再度読み直して咀嚼していきたいと思えます。自分の職務に対する姿勢の在り方を客観的に見つめ直し、今後どうい

う姿であるべきかを考え、日々実践に結び付けていきたいです。貴重な研修の機会をいただき大変ありがとうございました。今をどうするか日々追われがちですが「コロナ後の学校」や新しい時代に必要となる人材育成という視点に立った学校経営が必要と感じました。また、教頭としての今の自分を見つめ直す機会になりました。ありがとうございました。

・教頭の役割を再確認し、日頃から「あぶない」「あやしい」を嗅ぎ分け、校長の示す学校経営ビジョンに基づく学校運営に全力を尽くしたいと思えます。講話の中で、いくつもの事例について考え、自校を振り返ることができました。今後も適切な対応について教職員との共通理解の下、迅速に対応したいと思えます。上川教育局教育支援課長様、4名の校長先生から、たくさんの貴重なお話をいただき、すぐに取り組むべきこと、継続して質を高めていくことなど、多くの御示唆をいただき、感謝いたします。

・講話では、教頭としてのアンテナを張り、その感度を上げるために日頃から意識していかなければならないことについて、具体例をもとに考えることができました。ご助言では、教頭としての役割を自覚し、目標や目的を明らかにして行動することの大切さを改めて確認することができました。幅広く深い見地からのお話を聞くことができ、大変貴重な機会となりました。今後、自ら行動、実践していくことが何より大事だと考えます。本日学んだことを、今日から一つでも多く、実践していきたいと思えます。このような機会を設けていただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。〔管理職は「空振り」は許されませんが、見逃しは許されない。〕という言葉は、まさに今の教育現場の危機管理に必要なものだと痛感しました。常にあらゆる状況を想定しながら準備をするために、管理職だけで行動するのはなく学校が組織的、協働的に機能できるのが肝要だと思えました。

24 書に親しもう 1/6(木)

Ⅱ講師Ⅱ

東藤 義文 〔光陽中 校長〕

「書の良いところを見つけてほめる」や手本を見せるなど接し方、声のかけ方等、勉強になることが多くありました。ありがとうございました。アドバイスをいただきながら、夢中になって書きました。とても楽しかったです。もつと書きたくなり、子ども達にも書の楽しさを伝えたいです。筆運びとリズム。自分で書くと、たんたんと同じ太さ、同じリズム（速さ）で書いていますが、穂先から腹までの使い方が大事だと思えました。また、文字の見せ場をどのように書くのかについて意識することがなかったので、勉強になりました。



25 絵に親しもう 1/6 (木)

Ⅱ講師Ⅱ

鎌田喜美子 〔朝日小 教諭〕

図工の授業の課題や子どもの困り感について、どのように指導していくのがよいのか道筋を教えていただき大変勉強になりました。いろいろな道具や画材も準備していただき、試すことができたのもよかったです。自分自身で作品づくりをしたり、人がつくった作品を見たりすることで、学ぶことも多かったです。是非また参加したいです。ありがとうございました。図工の指導の際、「上手な絵」をかかせるための時間にならないということを今回学び、今までの自分の指導を反省しました。また、様々な画材を使わせたいただき、とても勉強になりました。鎌田先生のお人柄がにじみ出た空間で、楽しいひとときを過ごさせていただきました。大変ありがとうございました。



出前講座寸描

【講師：大津こずえ（美馬牛小 教諭）】

講座では、複式学級での授業の進め方や、子ども同士での活動を増やす声かけ方法などを教えていただきました。模擬授業により、実際の場面に近い形で学ぶことができ、今後の授業がとてもしなやかになりました。御指導ありがとうございました。（東川町立東川第三小学校 永木 亜弥）



東川第三小 複式指導 6/24(木)

【講師：佐々木 玲北光小 主幹教諭】

指導者・児童間での情報交換、グループ内でのシェア、共同作業：大変参考になることばかりでした。「iPadを積極活用したい。」と意欲が高まり、御指導いただいた内容を即授業に生かしていきそうです。ありがとうございます。（旭川市立近文第一小 佐藤 賢二）



近文第1小 タブレットPCの活用 6/24(木)

【講師：上村 純一（上川教育研修センターICT指導員）】

コロナ禍において養護教員会の研修を継続して行っていくために、デジタルクラスルームの作成と活用方法について学びました。単なる連絡手段やオンライン会議だけでなく、様々なことができる可能性を教えてください。感謝いたします。（旭川市立緑新小学校 児玉 郁子）



北海道養護教員会上川支部旭川ブロック Googleの活用法 8/17(火)

【講師：佐々木 玲北光小 主幹教諭】

講義の中で、具体的な操作方法や実践例を教えてください。日常の授業でICTを効果的に活用できる場面が増えました。御指導いただいたことを、今後の授業改善や本校の研究に生かしていきたいと思います。ありがとうございます。（旭川市立新町小学校 山上 佐知子）



新町小 タブレットPCの活用 8/18(水)

【講師：上村 純一（上川教育研修センターICT指導員）】

ICTの活用方法について、具体的に示していただきました。For ms等は、低学年の子達にも体験させながら、実践できるかもしれません。学習用具の一つとして、今後の授業に生かしたいと思います。御指導ありがとうございました。（鷹栖町立鷹栖小学校 山本 紀子）



北野小 タブレットPCの活用 9/27(月)

【講師：上村 純一（上川教育研修センターICT指導員）】

タブレットPCの活用方法を具体的な授業場面を設定して示していただき、大変勉強になりました。ICT教育を進めていくために、まずは指導する私たちがタブレットPCなどのICTを日常的に使用してみることが大切だと学びました。（鷹栖町立鷹栖小学校 山本 紀子）



鷹栖小 タブレットPCの活用 10/4(月)

【講師：吉野 法行（東川中 教諭）】

「ロイロノートは広大な模造紙のようなもの」という表現が分かりやすく、授業ですぐに活用できそうという気持ちになりました。ノートの提出や意見の共有、プレゼンテーションの作成等、子どもたちと活用していきます。（愛別町立愛別小学校 高野 美穂）



愛別小 タブレットPCの活用 10/6(水)

【講師：吉野 法行（東川中 教諭）】

主に、ロイロノートを活用した授業・教育活動の実践例は、すぐにも本校で取り入れたい内容のものばかりでした。また、今後の学校として、ICTの活用を進めていくロードマップがはつきりました。本講座の内容を生かし、より有効なICT活用に向けて尽力していきます。本当にありがとうございました。（愛別町立愛別中学校 光永 雅晴）



愛別中 タブレットPCの活用 10/7(木)

旭川小 タブレットPCの活用

10/13(水)



【講師】石本 周司(末広北小 教諭)
講義の中で、タブレットを使った実際の取組を紹介していただき、ICTの幅広い可能性を感じることができました。今後の授業作りではICTを効果的に使い、より深まりのある授業を目指していきます。御指導ありがとうございました。
(旭川市立旭川小学校 小足ときね)

鷹栖中 タブレットPCの活用

10/7(木)



【講師】上村 純一(上川教育研修センターICT指導員)
Microsoft Teamsでできることを受講生である私たちが実際に操作する機会を多く設けてくださいました。本講座で学んだことを、今後の授業実践などに生かしていけるよう努めてまいります。
(鷹栖町立鷹栖中学校 伊藤 洋貴)

永山中 総合的な学習の時間

10/25(月)



【講師】小原 広土(附属旭川小 教諭)
総合的な学習の時間の重要性を実践例を交えて示していただき、より具体的に授業の構成について知ることができました。講義の中で学んだことを今後の授業に生かしていこうと思います。御指導ありがとうございました。
(旭川市立永山中学校 麻里 夢衣)

旭川中 タブレットPCの活用

10/13(水)



【講師】吉野 法行(東川中 教諭)
職員室の意識改革のプロセスから児童生徒の発想力を生かしたタブレット活用術まで、盛りだくさんの実践例を示していただき、大変勉強になりました。今後もロイノートの活用術などを学ばせていただきたいです。御指導ありがとうございました。
(旭川市立旭川中学校 山田 浩輝)

緑新小 タブレットPCの活用

12/10(金)



【講師】石本 周司(末広北小 教諭)
大変わかりやすい説明や実際にアプリに触れながら使い方を教えて頂き、速度感や便利さを実感しながら学ぶことができました。すぐに使える技術ばかりでしたので、翌日の授業に取り入れました。御指導ありがとうございました。
(旭川市立緑新小学校 瀧口 広子)

緑が丘小 タブレットPCの活用

11/26(金)



【講師】佐々木 玲(北光小 主幹教諭)
講義では、メモやJamboard、Meetのアプリでの指導方法、活用の仕方について紹介していただきました。講義の内容を今後の授業に生かしていきたいと思えます。御指導ありがとうございました。
(旭川市立緑が丘小学校 田中 統士)

明德小 タブレットPCの活用

1/20(木)



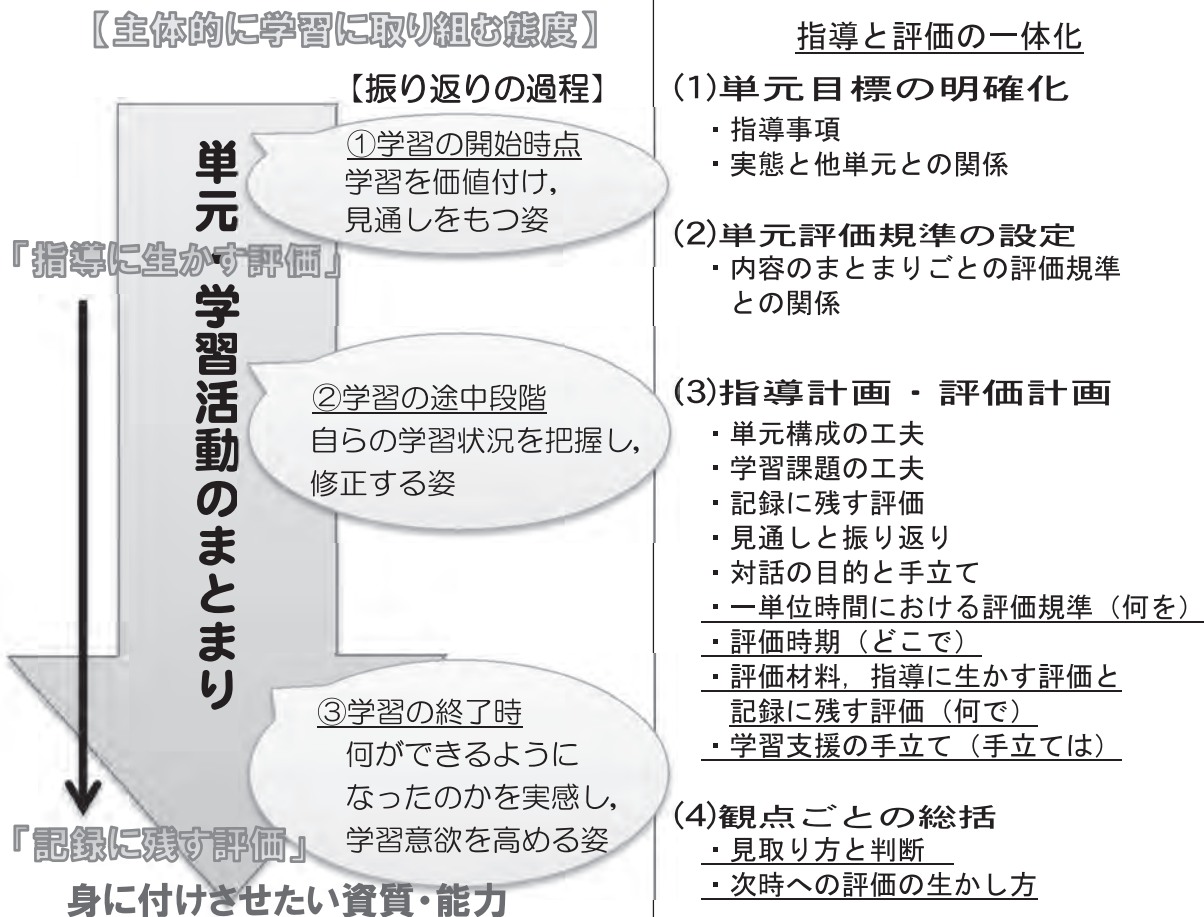
【講師】石本 周司(末広北小 教諭)
講師の先生には、こちらの不安な気持ちに寄り添っていただきながら、楽しく実践的な講義を行っていただきました。未来を担う子どもたちに必要な力を付けるため、また自分たちの働き方改革にも繋がっていくと信じて、まずは楽しみながら使ってみようと思います。ありがとうございます。
(美瑛町立明德小学校 竹田 麻由子)

緑が丘中 特別支援教育

1/11(火)



【講師】目良 久美(美瑛町教育委員会 参事)
主に情緒の特性や対応についての講義を聴き、自己理解とセルフコントロールの力の必要性を再確認しました。講師の目良先生から、元氣と子ども達のために頑張る気力をいただきました。有意義な時間をありがとうございました。
(旭川市立緑が丘中学校 中本千悦子)



研究室だより

今、研究室では

上川教育研修センターでは、理論研究と実践検証を行った結果、2年次は、次のような成果と課題を明らかにすることができた。

成 果

- ①指導と評価の一体化を実現するために評価計画の中に、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を明確に位置付けて実施することができた。
- ②「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、単元の中で効果的な振り返り場面を設定することで、自己調整を指導することができた。
- ③「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、振り返りシートを活用することで、自己調整を見取ったり、指導改善につなげたりすることができた。

課 題

- ①評価規準を明確にするために、「一単位時間の評価で何を評価するのか」、「評価時期はどこが適切か」、「材料は何で評価するのか」、そして、「努力を要する児童生徒への手立てはどうするのか」をより具体的にすることで、客観性をもたせることができるようにする。
- ②3つの観点をどこで、どのように一体的に見取るのか、また、見取り方を検討していく必要がある。

詳細は、3月発刊の研究紀要第47号を御覧ください。

第一八次研究 二年次
研究主題「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方」
求められる資質と能力を育む指導と評価

協力校の実践

「知識を相互に関連付けてより深く理解する姿を目指すために、既習内容や経験と関連付けた思考の促進を図る学習」

旭川市立永山南中学校 第一学年 数学科

授業者 青木 俊也

一 単元の指導計画・評価計画を充実させる視点

本単元は、小単元の順を変更して構成し、生徒の学習が比例から反比例へと段階的に進むように指導計画を立案した。単元の最初には、単元の見通しをもたせるために、レポート課題（予想）を位置付けた。また、小単元の終わりごとに小テストとレポート課題を配置し、単元の学習後には、単元テストとレポート最終課題を配置した。

主体的に学習に取り組む態度については、意図的に配置した小テストやレポートに粘り強く取り組ませる中で、自らの学習を調整させた。レポート最終課題において、思考・判断・表現と一体的に見取り、振り返りシートの記述を加味しながら記録に残す評価を行った。

二 本時における具体的な見取り方とその判断について

本時は、具体的な事象から二つの数量関係を着目し、表現することを切り口とし、身近にある二つの数量関係を自分で見つけることを目標とした。主体的に学習に取り組む態度の評価については、関数関係にある事象を探そうとする活動を通して、単元の見通しをもつことができたかを見取り、指導に生かした。

三 本実践の成果と課題

単元の始めにレポート課題（予想）を行ったことで、生徒が単元のゴールを意識できた。また、数回のレポート作成によって、多くの生徒が自己調整を行いながら、身近にある関数関係を表や式で表現できた。一方で、レポートに重きを置いたため、問題演習の時間を十分に確保できず、表や式、グラフの読み取りに課題が残った。



協力校の実践

「知識を相互に関連付けて問題を見い出して解決策を考える姿を目指すために、個の問いの顕在化、切実な課題の設定を図る学習」

旭川市立陵雲小学校 第六学年 国語科

授業者 森下 ほのか

一 単元の指導計画・評価計画を充実させる視点

本単元は、話し合いを繰り返して設定することで、目標とする姿により近づくことができた。すべての児童の様子を見取るためにデジタル機器を活用し活動を記録したり、ワークシートの記述から、支援が必要な児童を把握したりすることで、評価に生かすことができた。主体的に学習に取り組む態度を見取る上で三点を大切にしたい。

一つ目は、単元の一時間目に単元終末の言語活動をイメージさせたことである。教師と児童がゴールを共有することで、学習の見通しをもつことができた。二つ目は、意図的に自己調整の場を設けたことである。振り返りと課題設定を繰り返すことで、粘り強さや調整力を育むことができた。三つ目は、振り返りシートの活用である。一人一人の課題と、変容が見取りやすくなった。

二 本時における見取り方とその判断について

本時の話し合いは全三回のうち二回目にあたる。前回からの変容を実感し、更なる課題を見付け、単元のゴールに向けて自己調整していく。主体的に学習に取り組む態度の評価については、活動の様子と振り返りシートの記述を基に、指導に生かす評価を行った。

三 本実践の成果と課題

教師が児童一人一人の課題を把握すること、適切に支援することができた。しかし、シートだけでの評価は難しく、シートの内容が、実際の態度として表出されているかを行動観察する必要がある、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を身に付けたりする中で、一体的に見取ることが重要だと感じた。



令和4年度ICT実技研修講座の開設について

GIGAスクール構想の推進により、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークなど教育環境の整備が進められました。各学校においては、整備されたタブレットに慣れるところから始まり、様々な使い方を試行錯誤する中で、教師と子どもたちが一緒になって活用を進めていることと思います。また、先に出された中教審答申では、ICTは「個別最適な学びと、協働的な学びを実現するために必要不可欠なもの」として位置づけられ、教員の「ICT活用指導力」が求められています。

当センターのICT実技研修では、授業改善や校務の効率化をテーマにした講座を用意しております。ぜひ御活用ください。

開設講座について

【表計算に関する講座】

- A 表計算入門（初級者向け） ○エクセルの基本的な使い方や表計算の概念
- B 校務のための表計算（中級者向け） ○校務で活用できるエクセルのテクニックや関数
- C 校務のための表計算／クラウド活用（中級者向け） ○校務で活用できるクラウドサービスと表計算の応用

【プログラミング教育に関する講座】

- D 授業のためのプログラミング入門 ○小学校プログラミング教育の理論研修 ○プログラミングソフト（Scratch）やMicro:bitを用いた簡単なプログラム ○将来の子供たちを取り巻く情報化社会の理解（eスポーツを通して） など

【タブレットPCに関する講座】

- E タブレットPC入門（初心者向け） ○タブレットPCや基本アプリの使い方について
- F 授業でのタブレットPC活用 ○授業におけるICT機器の効果的・効率的な活用
- G 校務でのタブレットPC活用 ○校務におけるICT機器の効果的・効率的な活用

利用上のお願ひ

会場利用にあたっては、右記の時間内での使用を守っていただくようお願いいたします。

また、当日の混雑状況によっては、当研修センターの駐車場に駐車できない場合があります。予め御承知おきください。

上川教育研修センター使用料金

貸室使用料〔一般〕

（教職員等、「承認団体」が研修等で利用する場合は、下記金額の半額）

室 名	午前（9～12時）	午後（13～17時）	夜間（18～21時）
講 堂	2,750円	3,080円	4,400円
講 堂 A・B	1,380円	1,540円	2,200円
研修室／会議室	1,100円	1,320円	1,870円
和 室	550円	660円	880円

冷暖房料（冷房料金7月1日～8月31日、暖房料金10月1日～5月31日）

室 名	午前（9～12時）	午後（13～17時）	夜間（18～21時）
講 堂	1,100円	1,320円	1,650円
講 堂 A・B	550円	660円	830円
研修室／会議室	550円	660円	880円
和 室	330円	330円	330円

*冷房料は講堂と第1研修室のみ

宿 泊 料

2,750円〔暖房料・一部屋〕440円

*研修講座受講者、「承認団体」等が行う研修に伴う宿泊者、小中学生は1,320円

※この用紙は再生紙（古紙70％）を使用しています。

印刷所 谷川印刷株式会社
 責任者 福家尚
 発行日 令和四年三月一日
 〒077-0036 旭川市六条通四丁目
 旭川市六条通四丁目
 電話 〇一六八二四二五〇一